

「言語と文化と人」 2

「日本語だけでなく、日本の文化や習慣も！」 ー文化って何だろうー

「外国語を習得するためには、言語だけでなく、その国の文化や習慣も学ばなければならない」と日本の人はよく言います。これは、本当でしょうか。たしかに、言語と文化は表裏一体のものだと言っているでしょう。しかし、その場合の文化とは何でしょう。

文化の反対は何でしょう。経済？ 政治？ 社会？ どれも違います。文化の反対は自然です。すべての動物は自然の中で自然の環境と相互作用をしながら生きています。何十万年前の人間の生き方もだいたいそのような状態でした。しかし、人間は環境との相互作用の仕方を少しずつ変えながら、独自の生産活動や生活活動を、仲間といっしょに発展させました。生産活動とは、食べ物を獲得したり、生活に必要な物を作ったりする活動で、生活活動とは、獲得した食べ物を料理したり、みんなでいっしょに食べたり、おしゃべりをしたり、いっしょに歌ったり踊ったりする活動と子どもを育てる活動です。そして、独自の生産活動や生活活動を発展させたことによって、一つの集団としての独自の生き方や暮らし方ができました。それが文化です。

言語は、そうした生産活動や生活活動を仲間といっしょに運営するために生まれました。そして、新しい活動とともに発展しました。ですから、言語は本来活動と切り離すことはできません。言語は文化の一部なのです。

南米のアマゾンに、ピダハンという民族がいます。かれらは、昔と何も変わらないかれら独自の狩猟と採集の生き方と独自の暮らし方をずっと続けています。あなたがピダハンの言語を学びたいのであれば、ピダハンの生き方や暮らし方も知らなければなりません。ピダハンの言語は、まさにかれら独自の生産活動や生活活動を運営するために使われているわけですから。そのような場合は、最初に言った「言語だけでなく、文化や習慣も」と言うのは、適当です。しかし、現代語の場合は、事情が違います。

日本語は現代語の一つです。さて、日本人にピダハンのような独自の生産活動や生活活動があるでしょうか。そんなものはありません。現代の社会には、さまざまな種類の生産活動と生活活動があり、それらが複雑に混在しています。そして、それぞれの人は自分ができる生産活動と生活活動のレパートリーをもっていて、そのレパートリーに応じた話し方や書き方を身につけています。ですから、現代社会で生きる大部分の人は、文化的に複合的で、言語的にも複合的です。

日本の文化、つまり日本で生きる人びとの生き方や暮らし方を一つのものとして捉えることはできません。ですから、「日本語を習得するためには、日本の文化や習慣も学ばなければならない」と言うのは、あまり適当ではありません。「文化や習慣」を「日本」という単位で見るのは広すぎます。むしろ、「あなたが友だちになりたいと思っている人たちの文化や習慣も学ばなければならない」と言うべきでしょう。

そして、そうすると、日本語の習得も、「あなたが友だちになりたいと思っている人たちのような日本語を身につけるのがあなたの日本語を上達させる」ということになります。

わたしたちが新しい言語を学ぶのは、結局、したい活動に参加し、友だちになりたい人と交流するためです。「一般的な日本文化」の中で「一般的な日本人」と付き合うわけではありません。

(1348 字)

(2020.12 Written by Koichi NISHIGUCHI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.